

令和 3 年度 伊賀市地域包括支援センター事業実績

1) 総合相談支援事業

福祉の一次相談窓口として多様な相談を受けるとともに、関係機関と連携しながら、より詳細な情報収集を行い、必要な支援を行いました。支援の困難なケース等については、地域ケア会議や相談事案調整会議等の開催により関係機関との情報共有や具体的な支援の方法について検討しました。

●総合相談支援件数

	延人数	実人数	主な相談内容（延件数） * 重複あり								
			介護 保険サ ービス	高 齢 者 福 祉サー ビス	経 済 的 問 題	医療	住居	障が い	虐待 （疑い 含む）	認知 症	権利 擁護
中部	4,256	906	1,661	276	494	615	303	91	879	303	279
東部	1,449	263	611	223	163	247	21	99	384	114	33
南部	822	193	273	22	164	155	35	26	207	101	41
計	6,527	1,362	2,545	521	821	1,017	359	216	1,470	518	353
2 年度	7,195	1,253	2,663	576	1,157	1,196	564	263	1,211	847	565

2) 権利擁護事業

権利侵害の対象になりやすい高齢者に対し、権利侵害の予防や対応、本人が自分の意思を主張し権利行使ができるように支援を行いました。必要な福祉サービスや日常的な金銭管理について、適切に判断することに不安のある認知症高齢者が増加しています。成年後見制度や日常生活自立支援事業の利用に繋げることで権利擁護に努めました。

また高齢者虐待の通報を受けた時は、速やかに事実の確認を行い、伊賀市高齢者及び障がい者虐待検討委員会に諮ったうえで、虐待解消に向けて支援を行いました。

〔養護者による高齢者虐待〕

●通報件数と通報者の続柄（R1～R3 年度）

年度	虐待通報 受理件数	通報者の内訳（重複あり）								
		本人	家族 親族	ケア マネ	サービ ス 事業所	医療 機関	民生 委員	警察	行政 機関	その 他
R1	33	2	2	9	0	3	1	8	4	4
R2	37	5	5	18	3	0	0	5	4	1
R3	58	3	10	25	6	3	2	4	5	3

●虐待認定件数と虐待の種別（R1～R3 年度）

年度	虐待認定 件数	虐待の種別（重複あり）				
		身体的虐待	介護放棄	心理的虐待	性的虐待	経済的虐待
R1	28	20	10	17	0	11
R2	33	28	6	24	2	2
R3	47	35	11	25	0	5

●被虐待者の性別（R1～R3 年度）

年度	被虐待者 人数	性別	
		男	女
R1	30	6	24
R2	35	9	26
R3	48	9	39

●虐待者の属性（R1～R3 年度）

年度	虐待認定 件数	虐待者の属性（重複あり）								
		夫	妻	息子	娘	息子の 配偶者	娘の 配偶者	兄弟 姉妹	孫	その 他
R1	28	6	0	14	6	0	1	0	4	1
R2	33	9	3	15	4	3	0	0	2	2
R3	47	16	4	19	7	8	0	1	5	0

●被虐待者に対する対応（R1～R3 年度）

年度	被虐待者 人数	分離の有無	
		分離	分離せず
R1	30	6	24
R2	35	13	22
R3	48	19	29

〔養介護施設従事者等による高齢者虐待〕

●通報受理件数と虐待認定件数、通報者の内訳（R1～R3 年度）

年度	虐待通報 件数 (事業所数)	通報者の内訳（重複あり）						
		本人・ 家族	当該施設 職員	医療 機関	ケア マネ	介護 相談員	行政 職員	不明
R1	2	0	1	0	0	0	1	0
R2	4	1	0	0	2	0	1	0
R3	2	1	1	0	0	0	3	0

●虐待認定件数と虐待の種別（R1～R3 年度）

年度	虐待認定件数	虐待の種別（重複あり）				
		身体的虐待	介護放棄	心理的虐待	性的虐待	経済的虐待
R1	1（1事業所）	1	0	0	0	0
R2	6（3事業所）	1	3	2	0	0
R3	2（2事業所）	0	1	1	0	0

●高齢者及び障がい者虐待検討委員会開催回数（高齢者のみ）（R1～R3 年度）

年度	開催回数
R1	103
R2	119
R3	199

3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援事業

地域の様々な社会資源と連携し、途切れなく高齢者の生活支援が提供されるように努めました。また、地域のケアマネジャーが抱える支援困難事例の相談・助言やケアマネジメント実践のスキルアップのための研修会等を開催しました。

●ケアマネジャーを対象とした研修会の開催

開催日	内容	出席者数
9月14日	「伊賀市地域資源データベースシステム説明会」 介護高齢福祉課、地域包括支援センター、医療福祉政策課、 社会福祉協議会、CASIO	77人
12月14日	「防火研修」 伊賀消防署 副署長 西森 康典氏	70人
3月17日	「パーソナリティ障害を学ぶ」 上野病院 公認心理師 都野 翠氏	50人

●ケアマネジャーを対象とした事例検討会の開催

	開催日（2 時間）	出席者数
第 1 回	6 月 15 日	12 人
第 2 回	8 月 17 日	10 人
第 3 回	10 月 19 日	9 人
第 4 回	12 月 21 日	11 人

4) 介護予防ケアマネジメント事業・介護予防支援事業

要支援認定者及び介護予防・生活支援サービス事業対象者を対象に、ケアマネジャーによる介護予防支援プランの作成を行いました。サービスの利用により ADL の維持向上を図るとともに、住み慣れた自宅で自立した生活が送れるように支援をしました。月平均 228 件の介護予防プラン作成を居宅介護支援事業所に委託しました。

●介護予防ケアマネジメント、介護予防支援実施件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
介護予防ケアマネジメント	332	323	317	315	318	329	333
介護予防支援	577	571	583	568	559	554	550

	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
介護予防ケアマネジメント	341	339	337	321	343	3,948
介護予防支援	561	565	556	558	562	6,764

5) 地域ケア会議等

支援困難とされる事案や、課題解決のために多職種連携や多機関協働が必要な事案が増加しています。

地域ケア会議等では、支援困難とされる事案の課題を明らかにし、支援方針や支援者の役割について検討をするとともに、個別課題から地域課題の抽出を行いました。会議の開催により支援者間の連携が進み、市民の権利擁護や自立支援に役立ちました。

●地域ケア会議等の開催回数（R3 年度）

地域ケア会議			相談事案調整会議
個別会議 （民協単位）	運営会議 （支所単位）	担当者会議 （全市単位）	
0 回	11 回	4 回	9 回

6) 一般介護予防事業

介護予防に関する知識の普及啓発のため、保健師による介護予防出前講座を実施しました。

また、住民主体の介護予防活動の育成・支援を目的に、介護予防リーダーの養成を行いました。

介護予防リーダー養成講座は全 15 回の連続講座ですが、新型コロナウイルス感染拡大防止により途中で休止したため年度内に修了できず、令和 4 年度も講座を継続しました。

なお、修了生には各地域で介護予防に取り組んでいただくこととしており、修了者のためのフォローアップ教室を開催して、リーダーとしてのモチベーションの維持に努めました。

●介護予防出前講座

	内 容	回数	受講人数
介護予防出前講座	老人クラブや地域の要請により、介護予防に資するテーマで講座を実施しました。	41	571

●介護予防リーダー養成講座

回数	受講実人員	講座修了者数
15 回	14 人	13 人

●介護予防リーダーフォローアップ教室

回数	参加延人数
1 回	13 人

※新型コロナウイルス感染拡大防止により講座を 2 回に分けましたが、2 回目（20 名参加予定）はまん延防止重点措置期間のため中止になりました。

●令和 3 年度末 介護予防自主グループ数

上野地区	島ヶ原地区	伊賀地区	阿山地区	大山田地区	青山地区
16	0	3	2	7	6

●フレイル予防を目的とした DVD の作成およびパンフレット等を配布

- ①市内通所介護事業所（36 か所）に DVD を配布
- ②いきいきサロン関係者に DVD 啓発用チラシを配布
- ③介護予防リーダー養成講座で DVD を放映
- ④歯科医院待合室での DVD の放映

出前講座やリーダー養成講座で活用しながら、希望者には貸出をしています。

7) 認知症総合支援事業

認知症になっても安心して住み慣れた自宅で生活することができるよう、施策に取り組みました。

① 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進

●認知症サポーター養成講座、認知症ジュニアサポーター養成講座

対 象	開催回数	受講者数
小学生（阿山小）	1 回	44 人
高校生・学生（伊賀白鳳高校、岡波看護専門学校）	3 回	56 人
職域（上野ガスグループ、三重県伊賀 LP ガスグループ、JA いがふるさと、わたせい、市職員）	12 回	259 人
一般住民	5 回	103 人

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため一部中止あり。

●キャラバンメイト連絡会

活動日	内 容	出席人数
5 月 21 日	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	
8 月 20 日	サポーター養成講座の準備・練習 伊賀市の認知症事業についての説明	9 人
11 月 19 日	サポーター養成講座の準備・練習 メイトによるサポーター養成講座開催報告など	9 人
3 月 18 日	勉強会について メイトいがの勉強会の反省 来年度の活動について	9 人

●認知症街頭啓発

令和 3 年 9 月 14 日（火）に、イオンタウン伊賀上野（マックスバリュ）にて街頭啓発を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。

②認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護サービスの提供

●認知症初期集中支援チームの活動

認知症発症早期に適切な医療や介護サービスにつなげ、認知症の進行を遅らせ、住み慣れた自宅であるべく長く、その人らしく生活できるように支援しました。（チームは地域包括支援センター内に設置）

実 支 援 人 数 (人)	支 援 方 法 (延 件 数)					チ ャ ッ ム 員 会 議 開 催 回 数 (回)
	来 所	訪 問	電 話	文 書	そ の 他	
5	3	40	61	0	0	10

●物忘れ相談プログラムを使用した早期発見

実施回数	実施場所	相談者数	うち要フォロー者数
6回	ハイトピア伊賀他	35人	7人

③認知症の人と介護者への支援

●認知症の人と家族の会つどい

偶数月は伊賀市、奇数月は名張市で計 12 回開催。認知症の人とその家族が情報交換を行ったり、お互いの気持ちを聴き合う場としました。

開催場所	開催回数	参加人数
伊賀市（伊賀市役所）	6回	23人
名張市（名張市役所）	6回	31人

●認知症カフェ

認知症を理解するために、誰もが気軽に集まり、交流できる場を月 1 回開催しました。

開催場所	開催回数	参加人数
いがオレンジカフェ（ハイトピア伊賀）	12回	42人

④認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進

●認知症講演会

認知症研究の専門医から認知症に対するポジティブな見方を学び、「共生」の地域づくりにつなげていくことを目的に、認知症講演会を開催しました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため会場の定員は 100 名にしました。後日、録画した講演会の視聴会を開催することで、多くの人に聞いていただくことができました。

日 程		場 所		内 容
11月14日（日）	14:00～15:30	サンピア 伊賀	90人	講演：「認知症ポジティブ！ 笑顔の暮らしのコツ」 講師：認知症介護研究・研修東京セ ンター センター長 群馬大学・名誉教授 山口晴保氏
11月23日（火）	13:30～15:00	ゆめぼりす センター	17人	

●認知症安心見守り声かけ訓練

認知症安心見守り声かけ訓練は、認知症の高齢者役の人に参加者が実際に声掛けを行い、どのように見守り、声掛けをすれば安心してもらえるか、安全に誘導ができるかを体験していただく訓練です。

例年、認知症サポーター養成講座を実施した後に訓練を行いますが、令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止による時間短縮のため、以前に養成講座を受講済の住民を対象に実施しました。

日 程		対象地域	参加人数
12月4日(土)	13:45~15:30	丸柱・音羽	24人

8) 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業

後期高齢者医療広域連合の委託をうけて、令和3年度より「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業」に取り組みました。

この事業は、高齢者の心身の多様な課題に対応し、きめ細かな支援を実施するため、後期高齢者の保健事業について、介護保険の地域支援事業や国民健康保険の保健事業と一体的に実施することとされています。医療・介護のデータ分析のもと、ハイリスク者への個別指導（ハイリスクアプローチ）及びフレイル予防についての普及啓発（ポピュレーションアプローチ）を実施しました。

① ハイリスクアプローチ

下記の4つのプログラムに取り組みました。

区分	対象者の抽出条件	対象	実施	結果
糖尿病性腎症重症化予防事業	健診で血糖値が高く、治療をしていない人	2名	1名	3か月間に3回保健指導を実施。血液検査の結果は改善がみられ、生活に運動習慣を取り入れるようになった。
低栄養防止事業	健診で低栄養の心配があるとされた人	11人	4人	3か月間に3回保健指導を実施。いずれの実施者も、蛋白質の摂取量が増えた。また3人の体重が増加した。
運動機能の低下防止事業	健診で運動機能の低下の心配があるとされた人	39人	24人	週1回の運動を3か月継続（計12回）。8名のグループに分かれて、集団指導を実施。プログラムに、栄養指導と口腔機能の向上に関する内容を盛り込んだ。開始時と終了時に運動機能テストを実施。殆どの参加者は運動機能が向上していた。
健康状態不明者の状態確認	健診未受診で、医療にもかかっていない人	19人	19人	介護や医療への接続の必要な人が3人あり、介護保険の申請支援、受診勧奨等、必要な支援を行った。

②ポピュレーションアプローチ

フレイル予防をテーマに、地域の通いの場等において健康教育を実施しました。

圏域	上野東南	上野南	上野西	上野北	伊賀	阿山	島ヶ原	大山田	青山	計
回数	1	2	2	1	8	6	2	1	1	24
人数	10	25	20	16	61	53	22	13	15	235

※新型コロナウイルス感染症まん延防止措置等の発令により、計画されていた通いの場の中止が相次ぎ、実施計画を下回りました。

令和 4 年度 伊賀市地域包括支援センターの取り組み

1) 介護予防事業

介護予防リーダーボランティアによる上野西部運動教室の立ち上げ

高齢になるとフレイル(健康な状態と介護が必要な状態の間)になりやすくなるため、フレイル予防が重要となってくる。フレイル予防では運動・栄養・口腔機能が重要であるが、最も重要なのが人とのつながりであると言われています。

伊賀市では、平成 26 年度より、地域の身近なところで介護予防体操を通して人との交流が図れるように、介護予防リーダー養成講座を開催し、自主グループ活動の支援を行っています。

しかし、上野西部地区では介護予防リーダーの教室が少ないため、今後上野西部地区で自主的な活動に繋げるため、今回モデル事業として実施。

養成講座を修了し、ボランティアの意欲のある 4 グループが中心となり運動教室を開催します。このように介護予防リーダーの活躍の場を作ることで、介護予防リーダーのモチベーションも保て、行政のみでのマンパワー不足も解消すると考えられます。

2) 包括的・継続的ケアマネジメント

インフォーマルサービス活用に向けて

伊賀市内のフォーマル、インフォーマルサービスの地域資源を一元化し、市民生活の支援者が活用するツールとして令和 3 年 9 月に Ayamu (地域資源データベースシステム) を創設しました。

令和 4 年度は、市内の居宅介護支援事業所の介護支援専門員に向けて、インフォーマルサービス活用・創設に関する研修を行い、インフォーマルサービスに対する意識を高め、さらなる Ayamu の活用を促進します。

また、Ayamu 内のグループツールを活用して、市内居宅介護支援事業所間で情報共有、意見交換が出来る場を作る予定です。